

商工經濟研究

第三卷 第四號

(昭和三年
十月十五日發行)

景氣循環諸學說の一分類

小川 福太郎

はしがき

近時動態經濟の研究並に其れに關聯する經濟政策研究の勃興し來れるに伴ひ、景氣循環の現象を解剖し其原因を發見せんとする著作は續々と現はれ、歐米の大家にして之れを論ぜざるものなき有様である。然しながら景氣循環の原因に就ては、從來の恐憊論に示されたる諸說と共に今尙種々様々の説があり、歸一するところが何れであるか人をして惑はしむる感がある。

従つて之等の諸說を集めて其異同を明かにすることは此方面の研究に於て格別必要である。此要求を滿すものとして米國ミネソタ大學ハンセン教授の近著「景氣循環論——其發達及び現狀」は一讀の價值あるものである。此書は要するに、景氣循環の原因に關する主要なる説を綜合統一し、錯雜せる諸說の中に一道の光明を與へんとしたものであつて、彼の意見に依れば、一見相對立してゐる諸說の間にも意外に大なる一致が存してゐるといふ。

今茲に譯出するのは其の第一章であつて、景氣循環諸學說の綜合的分類を試みたものである。(文中「」は譯書の挿入せしもの)

Alvin H. Hansen, Business-Cycle Theory, its Development and Present Status, 1927.

著者の意見では、景氣循環諸學說に就て一つ分類を作ることとは充分可能である、然しながら、其の理論家達を分類することは大體に於て危険である。各の論者が只一つの部類の中に入れられてゐる様な、諸論者に就ての嚴格なる分類は、何れの論者も其見解が一元的或は一方的であるといふことを意味する。事實上、景氣循環に就て只一つの一元なる説明を與へる論者は少いのである。景氣循環は一つの複雑なる現象であつて、其の一方的なる説明は誤りであり或は少くとも偏頗であり不完全である事は演繹的に殆んど認められ得るのである。しかも此事は事實上此問題を論ぜる者が大抵充分に承認してゐるのである。諸學說は多くの場合に於て相互に排他的ではない、従つて又同一の論者が、幾つもの補足的且つ相互に助力してゐる諸學說の説明者であると見えてはならぬ、といふ本來の理由は少しもない。従つて私は以下の分類に於て同一の名を二つ或は其以上の項目の下に置く事に躊躇せなかつたのである。其故に何れの理論家の部類でも其他のものに關係なく考へることは誤解を生ずることになる。

假令、嚴格〔なる分類〕に對してかゝる用心をしても、分類が危険であることを著者は充分承知してゐる。同じ部類の中に置かれてゐる論者の間にも屢々著しい相違がある——其相違は原著作者そのものを讀むことに依つてのみ充分に判斷し得られる。

然し事實上、或る論者が此の部類に屬してゐるか或は他の部類に屬してゐるかどうかを、吾人は余り頓着してゐない。吾人は只論議せられてゐる學說の展開にたゞさはるのみである。そして、或る學說を展開するに當つて時々當該部類の中に辛うじて分類され得る諸論者を入れてある、それは單に彼等が其學說を了解するに助けとなる様なことを何か述べてゐるがためである。

二

景氣循環が、近世の一現象——技術的諸條件と法律的諸制度とを伴へる近世の經濟制度の一產物——であることは充分承認された平凡なる一事實である。景氣循環は現存の經濟社會の構造・組織・諸機能及び諸過程を考慮せずしては理解することは明かに出来ない。景氣循環は、生産の技術的諸過程並びに法律的經濟的諸制度——それに依つて諸財貨が交換せられ、協力せる諸種の階級に分配せられる——と、それ等の人爲の制度的なる諸刺戟並びに外界の物質的世界自らが提供したる諸刺戟に對する人間の感應と、の中に固く根底を持つてゐるのである。

三

景氣循環諸學説には、小部類及び細部類を持つところの三つの廣い種類がある。第一に、景氣循環は資本家的經濟の一機能であると主張する諸論者がある。此部類は更に亦二つの主要なる學派を包含してゐる。先づ資本家的經濟を分配の立場より觀察して、法律的・經濟的諸制度が支配的であり、所得分配の不調整が生産と消費との均衡を狂はせて生産高の變動を生ぜしめる原動力であると信ずる者がある。現存の法律的・經濟的諸制度の下に運轉してゐる資本家的經濟は所得分配上の著しき不平等を生ぜしめる。かゝる所得の集中からして、生産要具に投資せられてゐるが如き莫大の財産を蓄積する傾向が起る。此點に於て此の部類の理論家達は、資本家的經濟の技術的特徴——即ち近世の機械的生産方法が迂回的な時間を費す過程であるといふ事實——を認めざるを得ないのである。生産者財——即ち生産要具——を先づ作る事に依て間接に消費者財が作られる。従つて其處に消費と生産、費消と貯蓄との適當なる關係といふ問題が持上る。乍然此の部類の理論家達は消費と生産との不調整が資本家的生産方法の技術的特徴から發生する事を認めない。彼等は寧ろ現存の資本家的制度的・法律的・經濟的諸制度——それに依て生産物が或る方法に依て分配せられる——の中に其の不調整を認めるのである。分配過程の中から消費不足及過大貯蓄が生ずるのである。其故に彼等の考では、生産物及び所得の變動といふ害悪は法律的・經濟的諸制度を變へて然し資本家的經濟の技術的基礎(迂回的・機械的なる生産方法)には手を付けずに置くことに依て救済することが出来る。此部類に屬する理論家達の中にはローダデル、マルサス、シスモンデイ、マルクス、ジョン・エ・ホブソン及てブーニアティアンが居る。

四

第二派の理論家達は、景氣循環が等しく資本家的經濟の一機能であると主張し、近世の經濟制度の技術的特徴に其注意を集中する。従つて彼等は景氣循環が除去せられ得るといふ程迄樂觀的ではない。彼等は兎に角大部分近世の生産過程が特に、發明・新發見・新資源・改善されたる方法増加しつゝある資本蓄積及び増加しつゝある人口の如き動的諸勢力の支配を受けるものである限り、景氣循環は該過程の性質の避くべからざる一結果であると主張する。景氣循環は資本家的或は迂回的生産方法を用ひて居る社會に於ける經濟的進歩の一機能であると主張せられる。此見地からして景氣循環は近世社會の技術的基礎の中に固く根底を置いてゐるのである。

此の部類の理論家達が注意を促すのは資本家的經濟の迂回的な時間を費消する過程である。彼等に取つては、景氣循環は要具財——生産するに多くの時間を要し、更に亦長時間に亘つて（消費者財作出の過程に於て）機能を營むところの諸々の機械・工場・鐵道・船舶及び其他の設備——の生産高の變動から成立つてゐるのである。時間的要素とか資本家的經濟の特徴たる迂回的生産方法とか更に又、それに従つて起るところの諸々の不確かなことや偶然の事及び判斷の誤謬の如きものからして、「次の様な種々の不調整即ち」消費者財の購買に比較して生産者財の購買に充てられたる全國民所得の割合の不調整、生産されたる諸要具の分量及び其の購買・運轉の爲に用立てられる貯蓄の分量の不調整、生産されたる諸要具の分量と其れを運轉する爲に用立てられる補足的諸要素——原料及び労働——の分量との不調整、近世の制度に於て先づ資本財を生産するといふ間接的過程に依て消費者財

が生産されるといふ事實から生ずる不調整、が起つて来る。

五

理論家達の此の部類は更に亦二つの細小部類を含んでゐる、即ち(一)は發明・發見及び技術的改良が經濟的均衡を破壊する衝動力であると見る人々、そして(二)は消費者需要の變化を衝動力と見る人々である。

後に明かである如くマルクス、ツォーガン、バラノフスキー、スピートホッフ、シュムペーター、カツセル、ロバートソン、アダムス、及び其の他の者が前者に屬してゐる。(下文第四章を見よ) 後者には就中アフタリオンピグー、カーバー、ゼ・エム・クラーク及びビツカーダイクが屬してゐる。

六

吾人の第二の主要なる区分は、景氣循環が競争的交換經濟の一機能であると主張する諸學説を包含してゐる。かゝる經濟に於ては販路が時間に於ても空間に於ても遠く隔つてゐる。販路が遠く隔つて居れば居る程、分業及び産業の専門化は一層複雑である。それは投機と諸々の危険とが充ちて居る不確かな動搖不定の販路である。かゝる經濟に於ては實業家達は將來の結果の豫想を根據として生産借金・勞働の雇傭・原料及び設備の買入を行ふ。勘定違ひは生ずる、累積的となり勝ちの判断の諸誤謬は必ず起る。且つ又、それらの事は、近世の個人主義的交

換經濟に於て競争が非常に支配をしてゐることからして猶更強くなる。だからして各商店は他人が同じ商賣でやつてゐる事柄を知らずに行動してゐるわけである。更に亦、近世の交換經濟に免れない極端なる分業及び専門化は、生産者の各集團をして、一販路の爲に、生産の連鎖中の次の集團に依存せしめることになる。そこに生産者間の高度の相互依存が生じ、それが爲に一つの集團に影響するところの何等かの事態は他の諸集團に對して累積的影響を與へる。此の部類に屬するところの經濟學者の中にはベヴェリツチ、マーシヤル、ピグー、タウンツグミツチエル、レスキユール、アリン・ヤング、フランク、キング及びラヴィングトンの名を擧げる事が出来る。

七

最後に景氣循環は貨幣經濟の一機能であるといふ學説がある。此の部類に取つて第一に重要なることは、生産の技術的諸過程・分配を支配するところの法律的・經濟的諸制度・個人的なる交換經濟及び市場諸過程が、貨幣及信用の機構を通して機能を營むといふ事實である。そして此機構の働きの中に吾人は循環的變動現象に關する光明を求めなければならぬ。近世の經濟に於ては需要と供給とは貨幣的測定單位に依て現はされる。物價の變動は生産過程及び消費自體の一結果ではなく、寧ろ諸財貨及勤勞に對して貨幣及び信用を提供することの結果である。かくて景氣循環の一つの説明は「次の如きものの中に、即ち物價の變動の中に、利潤率・割引歩合・銀行の準備金・生産者及び消費者の現金残高・貸付及び銀行信用の諸關係の中に、費用が賣價に追越される事の中に、利潤

限界の中に、經常所得の資本化に對する割合の中に、求められねばならぬ。

此部類に屬する論者の中に、ユグラ、ジデウイツク、ギツフエン、マーシヤル、ウイクゼル、フィツンヤ、ホートレー、アリン・ヤング、ヴェブレン、レスキユール、ミツチエル、ピグー、レプケ、及びハーンの名を擧げる事が出来る。

八

其見解に於て若干の論者は一方的であり他の諸論者は折衷的である。前者の部類の中で、大抵の論者は、景氣循環が經濟組織の只一つの特徴に依て根本的に條件付けられ或は惹起されると共に、尙、他の特有の諸制度が媒介物の用をなし、その媒介物を通して最初の刺戟が傳達され、又そうでなければ最初の運動を強め、そして強烈ならしめるといふ見解を採つてゐる。「資本家的生産派及び交換經濟派」に屬する多くの論者は、景氣循環に對する貨幣經濟の影響に就て此の見解を採る。彼等は景氣循環の諸原因が貨幣經濟の中に見出され得るといふことを認めない。然し貨幣經濟が、他の諸力に依て起されたる諸運動を強烈ならしめるところの、一つの條件づける要素であるか、(一註) そうでなければ一つの強める要素である事を認めることには異存を持たない。それらの論者は景氣循環が、貨幣經濟に固有の諸力に依ては惹起されずして寧ろ景氣循環の形及び烈度が貨幣諸制度——それを通じて近世の經濟制度が働いてゐる——に依て深く影響されると信ずる。其の見解に於て完全に一方的なる論者

は假令有つても少いのである。景氣循環に關する限り、何等かの他の要素(固守してゐる要素以外の)が何等かの結果を持つことを認めない者は少いのである。

(註1) Arthur Spiethoff, "Krisen" Handwörterbuch der Staatswissenschaften (1925), VI, pp. 72-74, 81-82 參照

多くの論者は其見解に於て折衷的又は多元的である。彼等は原因となる諸要素を近世の制度の幾つもの特性に求めねばならぬと主張する。彼等は一定の諸特性のみが獨り支配的であつて、他の諸特性は其支配的特性の影響を單に補足し、加勢し或は變更するものであるとは認めない。原因となる諸力は一元的であるよりも寧ろ多元的或は少くとも二元的であると考へられてゐる。

九

問題となれる特性が若し存在せないならば景氣循環は消滅するであらうかといふ問題を問ふ事によつて、一方的論者と多元的論者とは區別せられるであらう。例へば貨幣經濟が廢除されたならば、景氣循環は消滅するであらうと信ずる論者達は其見解に於て明かに一方的或は一元的である。各種の派に屬してゐるところの比較的一方的な論者の例は「資本家的分配派」のホブソン、「資本家的生産派」の第一の小部類のスピートホッフ、同派の第二の小部類のアフタリオン、「交換經濟派」のベヴェリツジ及び「貨幣經濟派」のホートレーである。

二元的並びに多元的論者の例は「交換經濟派及び貨幣經濟派」に屬するレスキユール、「資本家的生産派及び貨幣

經濟派」に屬するカツセル、「資本家的生産派及び交換經濟派」に屬するゼ・エム・クラーク、「資本家的分配派及び資本家的生産派」に屬するマルクス、最後にウエスレー・ミツチエル、タウシツグ、アリン・ヤング並にピグーの如く廣く折衷的であつて「資本家的生産派」、「交換經濟派」及び「貨幣經濟派」に依て力説せられたる諸要素に重きを置く人々である。多くの他の論者も擧げることが出来るが、以上の者は實例となるであらう。

10

それら種々の派は次の五章に論ぜられる。次に擧げるものは、上に簡單に述べたる諸部類の一分類である。(註一) 吾人の分類は、ゼボンズやムーアの收護循環説を特別なる一部類として含めて居ない。然しながら、彼等の説は循環的變化の原因を近世の經濟的制度の物質的基礎に見出す諸説と共に第五章に於て考察せられる。自然の賜物の諸變動が本來且又自然に景氣循環を生じないことは勿論明かである。只だ自然の恩恵のかゝる諸變動の衝擊が、交換制度並に貨幣制度を伴へる近世の資本家的制度の複雑なる機構に向けられる限り、其諸變動が場合に依て、景氣變動を起さしめたり、或は變更したりするのである。然し此説に就て別の一分類をして差支がないであらうといふ事を著者は否定せない、然し左様な分類をする事が有用であるとは考へなかつた。

一、「資本家的經濟」諸派

イ、景気循環の原因としての資本家的分配組織

ロ、景気循環の原因としての資本家的生産過程

一、経済的均衡を妨害する衝動要素としての發明・發見及び改革

二、経済的均衡を妨害する衝動要素としての消費者需要の變動

二、「交換經濟」派

三、「貨幣經濟」諸派

イ、利子歩合・利潤見込率及び物價水準の相互關係

ロ、原價と價格・利潤限界及び資本化の相互關係